

ごあいさつ

岡山県保健医療部 部長 梅木 和宜

糖尿病は、放置すると重篤な合併症を引き起こし、本人やその家族の生活に著しい悪影響を及ぼすとともに、医療経済的にも大きな負担を社会に強いるものであり、その重症化予防を図ることが非常に重要です。そのため、岡山県では、平成29年度に「岡山県糖尿病性腎症重症化予防プログラム」を策定し、このプログラムに基づく糖尿病性腎症の重症化予防の取組を推進しております。

本日は、その取組の一環として、医療や保健指導等に携わる皆様にお集まりいただき、「糖尿病性腎症の克服を目指して」をテーマにシンポジウムを開催するものであります。このシンポジウムを通じて糖尿病に関する理解を一層深め、今後の皆様の活動にお役立ていただくと幸いに存じます。

最後となりましたが、御講演を快諾いただきました先生方に、厚くお礼を申し上げますとともに、皆様方にとって意義深いシンポジウムとなることを祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。



岡山県医師会 会長
松山 正春



岡山県医師会 会計担当理事
佐藤 正浩



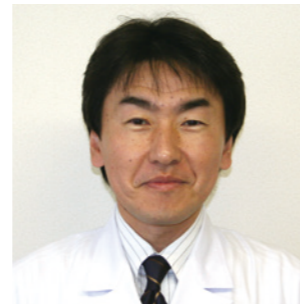
岡山県保健医療部 部長
梅木 和宜



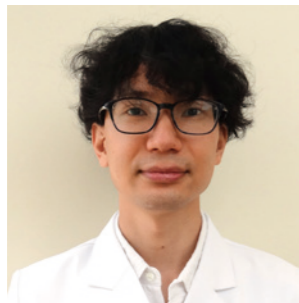
川崎医科大学 名誉教授 /
岡山県糖尿病対策推進会議 会長
加来 浩平



岡山大学 名誉教授・特命教授 /
岡山県糖尿病対策専門会議 会長
四方 賢一



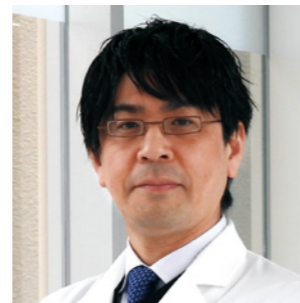
岡山済生会総合病院 糖尿病センター長
中塔 辰明



岡山大学病院 糖尿病センター 助教
和田 高平



淳風会健康管理センター 保健指導部 部長
遠藤 恵子



滋賀医科大学 糖尿病内分泌・腎臓内科 教授
久米 真司

岡山県糖尿病性腎症重症化予防プログラムの アウトカム結果と改定案

岡山大学病院 糖尿病センター 助教 和田 高平

略歴 平成24年鳥取大学医学部卒業。佐久総合病院、岡山家庭医療センターで研修後、岡山大学病院腎・免疫・内分泌代謝内科に入局。令和3年より現職。

岡山県では、平成30年に「糖尿病性腎症重症化予防プログラム（岡山方式）」を策定しました。また令和3年より岡山県国民健康保険団体連合会と連携し、KDBやレセプト情報を用いたアウトカム評価を行っています。令和6年3月に国の糖尿病性腎症重症化予防プログラムが改定されたことを受け、現在、岡山方式の改定を行っています。本会では、これまでの集計結果と新たなプログラム案について報告します。

特定保健指導の実際

淳風会健康管理センター 保健指導部 部長 遠藤 恵子

略歴 平成8年岡山県公衆衛生看護学校後、財団法人淳風会健康管理センターに入職。令和2年より現職。

平成20年度より始まった「特定保健指導」は、特定健診の結果から生活習慣病の発症リスクが高く、生活習慣の改善による効果が期待できると判定された対象者に対して行われるもので、5年ごとに改訂され（第3期以降は6年）、令和6年度よりアウトカム評価が導入され、現在第4期が開始されています。本講演では、特定保健指導の質の向上を目指し、年間約7,800人の特定保健指導を実施している弊会の取組みについてご紹介します。

我が国の糖尿病関連腎臓病 —過去・現在・未来—

滋賀医科大学 糖尿病内分泌・腎臓内科 教授 久米 真司

略歴 平成11年滋賀医科大学医学部医学科卒業。滋賀医科大学第3内科（現・糖尿病内分泌・腎臓内科）入局。令和4年より現職。

糖尿病関連腎臓病は我が国の透析導入原疾患第1位の腎疾患であり、その克服は喫緊の課題です。近年、従来の厳格な血糖・血圧マネジメントに加え、SGLT2阻害薬、MR拮抗薬、GLP-1受容体作用薬など腎保護効果を示す薬剤が登場し、糖尿病やCKDのガイドラインでもその使用が推奨されています。そこで本講演では、これまでの糖尿病関連腎臓診療の変遷と薬物療法を中心とした治療の進歩について概説します。